



令和6年度

すくわくプログラム活動報告書  
『世界』

(実施対象：2～5歳児)

ひなたの丘保育園

テーマ

# 世界

設定理由

海外旅行を経験した子どもの話題から、世界の文化や言葉に興味を持ち始めたため。

活動のねらい

自分たちの生活（文化）と関連づけながら、世界への興味を広げていく。

対象クラス

2歳児/12名    3歳児/13名    4歳児/7名    5歳児/11名

スケジュール

令和6年4月～令和7年3月



HELLO!

## 海外の子どもたちと オンラインで交流



英語で話すの、  
ドキドキする～



- シンガポールやインドなど、オンラインで様々な国の子どもたちとの交流を図った。挨拶の言葉や食事、生活習慣や遊びなどを冊子にまとめたものを用いて、事前にその国の情報を調べられるようにすると、それを見ながら、質問してみたいことなどを考える姿も見られた。
- オンラインでは、英語でのやり取りが基本になるため、英語講師から、簡単な英会話やアルファベットを教わる機会を設けると、興味を持ち積極的に参加する。

活動のために準備した  
素材や道具・環境設定

- プロジェクター・スクリーン・海外の情報をまとめた冊子・国旗図鑑・世界地図パズル

子どもたちの育ち

- それぞれの国に、異なる言葉や食文化があることを知り、自分たちが暮らす日本との共通点や違いを見出すことを楽しんでいる。
- 海外の子どもたちと、やり取りをしてみたいという思いを基に、英語への興味を深めている。



盆踊り



餅つき



書道



茶道

- 各国の文化と日本の文化の、共通点や違いを探すことに面白さを感じている。改めて日本の行事の意味にも興味を示し、理解した上で参加する。
- 書道や茶道の経験を通して、日本らしさに触れる機会を設けると、自然と丁寧な所作が見られたり、“もう一度やってみたい”と強く希望したりと、琴線に触れる体験となっている様子が見られる。

環境のために準備した  
素材や道具・環境設定

- 法被・書道セット・杵・臼・茶道セット・生花・行事図鑑・日本地図パズル
- その他季節の行事に適した素材

子どもたちの育ち

- 自分が暮らす日本について、改めて興味を示し、“なぜ・どうして”を知ろうとする。
- 見よう見まねでありながらも、珍しい体験に挑戦する意欲が見られる。また、自分が暮らす日本の良さを、体験の中で感じている。



イギリスの電車は  
どんな電車でしたか？



## 統括園長先生の旅日記！



ビッグベンを  
作ってみようよ！



イギリスと  
フランスって近い？

- 様々な国に対する知識が少しずつ増える中、統括園長から、海外旅行の記録を画像と共に聴く機会を設けた。各国の有名な建物や乗り物に興味を示し、その後、子ども同士で話し合いながら地球儀で場所を確認したり、レゴや積み木を使って建物や乗り物を表現したりと、得た情報を基に遊び始める。
- 各国の食事やデザートの写真を見る中で、『食べてみたい』という声が多く上がる。

環境のために準備した  
素材や道具・環境構成

子どもたちの育ち

- 旅行の記録をまとめたスライド・地球儀・積み木・レゴブロック・身近な人の体験記
- これまで、図鑑やオンライン上で見たものから、海外の知識は得ていたが、子どもたちにとって身近な存在である統括園長から直接話を聴くことで、“世界”をより身近に感じたようだった。
- 印象に残ったことについて、友だちと協力しながら確認したり、表現したりする力が育っている。



カオマンガイ



ジャスミンライス  
あった！



日本のお米と  
違うね…

台湾のルーローハンの  
作り方教えてください！



ママに教わった作り方、  
書いておこう！

ルーローハン



- ・ 統括園長同様に、シンガポールと日本を行き来する友だちから話を聴く中で、シンガポールの食べ物に興味を持ち、材料や作り方を調べて、カオマンガイを作ってみることになる。“ジャスミンライス”など、これまで味わったことのない風味が、子どもたちを惹きつけていた。
- ・ 保護者の中にも、海外出身の方がおり、その国の食べ物や作り方についてインタビューし、ルーローハンやチヂミ作りにも繋がった。

環境のために準備した  
素材や道具・環境構成

子どもたちの育ち

- ・ 海外の食事の写真・メモ用紙・筆記具・国旗・国旗図鑑・世界の図鑑・食べ物図鑑
- ・ 海外の食文化に触れた友だちや保護者
- ・ 統括園長に話を聴いた経験を基に、図鑑やインターネットだけでなく、友だちや保護者から情報を聴き出すという手段を獲得している。
- ・ 世界の料理に触れる中で、味覚や嗅覚から、日本との違いを感じ取っている。

## 全体の振り返り

世界に目を向けるきっかけとして、オンラインの場を設けるなど、保育士からの働きかけが主になるタイミングもあったが、子どもたちは自然と自分たちの生活（文化）との比較を楽しみながら参加する様子が見られた。その姿に合わせ、まずは日本の文化に触れる体験を保障していく中で、保育士も子どもたちと一緒にその意味を確認しながら伝統行事などに取り組み、改めて日本の良さを認識する機会となった。

世界という、実体験を伴いにくいテーマに於いて、子どもたちにとって身近な存在である人からの情報や、欠かすことのできない“食”だからこそ、活動に繋がっていったのかもしれない。その後、各国の国旗に対する興味が深まっているため、今後も様々な視点で世界に関わる活動を続けていきたい。